

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成25年3月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしく喜怒哀楽が出せる環境づくりと時間に制限されず、自由に生活できる空間づくりを目指しています。
大通り公園サイドという場所を活かして季節それぞれに花々やイベントを楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中心部の大通公園に面する場所に位置する2ユニットのグループホームである。建物は7階建てで、2～3階がグループホーム、1階がデイサービス、4～7階が共同住宅となっており、同一法人が運営している。大通公園に面しているため、窓から見える階下での人や車の往来が活発で活気があり、らいらく祭りやビアガーデン、雪まつりなども居間にいながら眺めることができる。公園での散歩もしやすく、気軽に近くの喫茶店や、ホテルのレストラン、デパートなどに外出することができている。開設後1年と短い、法人のバックアップのもと、研修を充実して個々の職員の高いレベルを実現し、職員同士の意思疎通も良好である。介護サービスの面では、利用者毎のアセスメントシートや介護計画をきめ細かく作成しており、職員は全利用者の計画を理解し、日々のサービスを提供している。重度化した場合の対応についても、対応方針を詳しく示した「重度化した場合における(看取り)指針」を利用開始時に利用者や家族に詳しく説明している。食事の面では、調理の段階から参加する利用者も多く、食事中も利用者同士で楽しく会話しながら過ごしている。出前を取ったり、レストランでの外食もあり、利用者が楽しめるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(2階すずらん館 アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大通西として理念は共有され、愛情を持って利用者様に接しており、実践につなげる努力をしている。	開設時に職員が思いを込めて作った独自の理念の中で「地域の方々との多くの縁を大切に」という文言があり、地域密着型サービスの理念として確立している。理念は共用部分に掲示したり、ミーティングで内容を確認し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ交流が図れていない。	開設後約1年で、現状まだ町内会に加入していないため、地域の行事などには参加していない。散歩の際に保育園児と挨拶したり、和太鼓のボランティアの訪問を受けることがある。	利用者が地域とのつながりをより多く持てるよう、町内会や地域の学校、幼稚園、ボランティアなど多方面との交流機会の創出を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催できていない。	開設後1年であるが、運営推進会議はまだ開催していない。今年度以降は開催を計画している。	概ね2か月毎の会議の開催を期待したい。開催にあたっては地域包括支援センターや地域の代表、複数の家族など参加メンバーの充実と、会議テーマの計画的な設定、案内や議事録の全家族への送付などを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点等は電話にて連絡し、札幌市で開催されている、連絡会議に出席し協力関係を築ける様取り組んでいる。	地域包括支援センター職員が1階の関連施設を訪問するため、その際に挨拶を交わし、今後の運営推進会議の参加を依頼している。相談事があれば市に直接相談しており、市の管理者連絡会にも参加し、行政担当者と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束のマニュアルが整備されており、内部研修で内容を確認している。各ユニットからエレベーターへの出入りは自由であり、1階の他施設との共同玄関は、出口のチャイムを押せば事務所の職員が開錠するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない為、勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には御家族様、御本人様の疑問点や不安、要望等をしっかり聞く時間を十分にとり、納得された上で、手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言動から思いを察知出来る様、毎日のコミュニケーションに努めている。御家族様からの要望は面会時に必ず、話を聞く時間をとり反映できる様努めている。	家族の来訪が多く、その際に多くの意見を得て運営に反映している。家族からの意見は連絡ノートに記載し、共有している。また、家族とのやりとりを「介護支援経過」に記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。	全体会議を月2回、ユニット会議を月1回、開催しており、職員が活発に意見交換している。また、年2回、管理者と職員の面談も行っている。職員は行事やお便りを交替で担当したり、事故や感染症対策、福利厚生、物品管理などを分担して担当し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し、向上心を持って働ける様、評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の機会が無かった一年目機に年間の研修予定を検討中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところは交流はない。今年は年間行事などで交流可能な範囲で実施できればと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の長年の経験を生かして活躍の場を作り尊敬の思いを言葉で伝え互いに良好な関係となっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が一番の介護者である事を十分理解し常に情報を交換することで御本人も安心出来る様共に支援する立場である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の友人や知人の方は時々面会に来られ、支援に努めているが、馴染みの場所には、なかなか行く事が出来ていない為、今後取り組み支援していきたい。	友人や知人が来訪する方もおり、家族の許可を得ながら来訪者を受け入れている。また、知人との年賀状のやりとりも支援している。近所の喫茶店に同行したり、個別にレストランやそば屋、デパートなどへの外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加でできるレク活動等行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。	言葉で思いや意向を把握するのが難しい場合も表情やしぐさなどから把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメントシートを家族の協力を得て作成し、内容を共有している。今後も情報を追加・更新する方針としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力量等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを理解し体調を考慮しながら力量を生かすよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立っている。	介護計画は利用開始時には1か月、その後は3か月毎に見直ししている。定期的なカンファレンスで評価を行い、計画を見直し作成し家族に説明している。日々のケース記録に計画目標を載せ、目標に沿って支援を行い、記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の際や外出の出入りの際など事業所内一階のデイサービスの職員などが支援するなど安心出来る体制が確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	冬場以外は恵まれた立地条件のもと大通り公園という四季の姿を景観し散歩するなど心豊かな時を過ごせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。	協力医による2週に1回の往診があり、個別のかかりつけ医の往診もある。その他の通院は家族対応としているが、必要に応じ事業所で支援を行っている。受診内容は「往診ノート」や「個人ノート」に記録し、共有している。	

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行く機会を多くし、病院関係者との情報交換や御本人様の状態を把握し、早期退院できる様に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における(看取り)指針」書類の説明を契約時に行い、御家族様の意向を確認している。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」を詳しく説明し、利用者および家族の同意を得ている。開設後1年であり、指針に沿った看取り介護にまで至ったケースは発生していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしたが、定期的には実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的を実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防の協力を得て実施しており、全職員の救急救命訓練も実施している。災害時の備蓄品は今後準備を進める予定である。	地域の方が避難訓練に参加したり、緊急連絡網に加わるなど、災害時に地域の協力が得られる体制づくりを期待したい。また、災害時に必要な備品について、チェックリストを作成し、用意することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、各個人に合わせた声掛けや対応を行っている。	利用者への呼びかけは「さん」付けにし、家族の意向で愛称で呼ぶこともある。本部研修で接遇を学び、丁寧な対応を心がけている。記録をする時もプライバシーに配慮し、書類関係は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささやかな事ではあるが、起床の際、日常着を自ら選択出来るよう声掛けしたり、おやつの際の飲み物の希望を確認したりはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間については個人のペースや体調を考えている為、朝食もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用している。他整髪等出来る範囲内ではあるが支援している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にとって暮らしの中での役割を重視しながら介助を受けるだけの関係ではなく共に生活を支えて成り立っていることを目指している。	献立を食材会社に委託し、好みを反映させている。時には出前や弁当、オードブルを取り寄せたり、外食を楽しんでいる。利用者は能力に応じて卵焼きを作り、味付け、盛り付け、食後の後片付けに参加している。利用者間の会話もあり、談笑しながら職員も同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員実施している。磨き残しがないかなど歯間ブラシなども利用しながら職員が介助することが多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録に排泄時間を記入したことで、排泄パターンを読み時間ごとの誘導することによって失禁を減らすよう支援している。効果は見られるが、数人である。	個人の排泄パターンに沿ってトイレでの排泄を行い、夜間も可能なかぎり、状態を見てトイレに誘導している。利用者の行動やしぐさから、それとなく声をかけて羞恥心に配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物で工夫したいが食材サービスを利用しているため限りがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望する方は極めて少なく入浴を好まない方が大半の為出来るだけ午後はいつでも入浴出来る準備をしタイミングに応じて入浴出来る様になっている。	いつでも入れる体制で、一日に3人の入浴を午後から行っている。順番や湯温の希望を聞いて週2回を目途にし、入浴を嫌がる時は、声かけの工夫やタイミングに合わせている。同性介助への配慮や必要に応じて2人介助もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、あまり入眠出来ない方には起床時間をづらしたり、日中休息出来るような働きをしている。又、湯湯婆など希望する場合には対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月2回薬局から届く薬の説明書きを職員は目を通し理解に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなどで役割りを持ってもら一方で体操や合唱等、全員が集まって楽しむ時間を作っている。又、個別外出などで気分転換することを行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿う事は職員体制や他の協力を得る努力をしてないため実行していない。あらかじめ予定を立てての外出はしている。	暖かい季節には大通公園を散歩し、車椅子の方も一緒に出かけている。コンビニエンスストアやデパートでの買い物、ホテルやレストランでのバイキング、公園でのビアガーデンなど、個別の希望に沿えるよう外出支援に努めている。冬季も近くの喫茶でコーヒーなどを飲み、受診の帰りに外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使える方は一名である。様々精神的不安などを抱える方も多いため所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話もご本人から要望することが出来ない方が大半である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくては1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭まなので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。	大通公園に面した居間兼食堂は、広い窓から四季の移り変わりや行事などを眺めて楽しむ、憩いの場になっている。新築の共用空間は清潔で、配色を統一したシンプルな造りになっている。居室の導線に沿ってトイレ、洗面所があり、分かり易い表示の工夫もある。観葉植物や加湿器を置き、過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限りあるスペースの為、独りになれる場所はない(居室以外)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。	居室の入口付近に、本人の写真を飾り、自室が分かるように工夫されている。室内は間取りの違いを活かし、馴染みの家具類やテレビ、鏡台、小物類が持ち込まれている。壁には家族の写真や職員からの誕生日メッセージなどが貼ってあり、温かい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成25年3月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階すずらん館」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年4月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階らいらっく館アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が自分らしく生活できるように支援していくかを職員間で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。愛情を持って利用者様に接しており、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上、地域との交流は難しいが、2年目を迎えるこの春からはできる限り交流の機会を持ちたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流する機会を作り、その後認知症への理解などを求める機会を作っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まだ実地には至っておらず、早期に開催できるよう調整中である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点等は電話にて連絡し、札幌市で開催されている、連絡会議に出席し協力関係を築ける様取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない為、勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には御家族様、御本人様の疑問点や不安、要望等をしっかり聞く時間を十分にとり、納得された上で、手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言動から思いを察知出来る様、毎日のコミュニケーションに努めている。御家族様からの要望は面会時に必ず、話を聞く時間をとり反映できる様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し、向上心を持って働ける様、評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の機会が無かった一年目機に年間の研修予定を検討中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところは交流はない。今年は年間行事などで交流可能な範囲で実施できればと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の長年の経験を生かして活躍の場を作り尊敬の思いを言葉で伝え互いに良好な関係となっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が一番の介護者である事を十分理解し常に情報を交換することで御本人も安心出来る様共に支援する立場である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の友人や知人の方は時々面会に来られ、支援に努めているが、馴染みの場所には、なかなか行く事が出来ていない為、今後取り組み支援していきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加でできるレク活動等行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状況を把握し調理や掃除、その方の有する能力に応じ支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の意向を日々の生活の中から聞き取りや、言動から読み取り、1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族様が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の際や外出の出入りの際など事業所内一階のデイサービスの職員などが支援するなど安心出来る体制が確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	冬場以外は恵まれた立地条件のもと大通り公園という四季の姿を景観し散策するなど心豊かな時を過ごせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行く機会を多くし、病院関係者との情報交換や御本人様の状態を把握し、早期退院できる様に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における(看取り)指針」書類の説明を契約時に行い、御家族様の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしたが、定期的には実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、各個人に合わせた声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中から、利用者様の思い、希望、関心を引出し、把握できる様努め、それらを基に利用者様が自己決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間については個人のペースや体調を考えている為、朝食もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用している。他整髪等出来る範囲内ではあるが支援している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にとって暮らしの中での役割を重視しながら介助を受けるだけの関係ではなく共に生活を支えて成り立っていることを目指している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に口腔ケアの声掛けを行い、利用者様個々の能力に合わせた介助方法にて、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンがわかるようにケース記録に排泄チェックを記入し、利用者様のリズムに添った支援を心かけ、トイレでの排泄が出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や朝に牛乳を飲んで頂く等している。一人一人の排便のリズムに合わせて、腹部マッサージや体操を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴されていない期間をみて声掛けを行い、自ら入浴希望する方は少なく、時間帯は午後からとし、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調を把握しながら、休憩時間を確保し、日中の活動量を増やし、夜間の安眠へ繋げている。就寝前の足浴を行う事や湯たんぽを使用し、良眠出来る様個々に応じた支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く処方箋を個人ファイルに綴り、職員は服薬内容等、副作用についても理解、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の持っている能力を引き出せる場を提供し、役割を持ち生活できる様支援している。又、買い物や外食、散歩の機会を多く取り入れ、気分転換が図れる様支援している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿った外出は出来ていないが、普段行けない、ホテルでの外食やコンサート、ピアガーデン等御本人の希望を聞き入れながら、計画を立て出かけられる様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使える方は一名である。様々精神的不安などを抱える方も多いので所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や御家族様と電話で話されたり、手紙ではないが、年賀状でのやり取りができる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくては1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭まなので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部が狭い空間の為、なかなか一人になれる時間帯は難しい。気の合った利用者様同志と一緒にになれるレイアウト作りの工夫は行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり大通西

作成日：平成 25年 4月 21日

市町村受理日：平成 25年 4月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	開設後約1年となりますが、立ち上げ当初より町内会の会長さんとの関係性が悪く、町内会には加入できていない為、地域との交流も、まだ図れていない。	地域の方々と日常的な交流が図れる様に努力する。	近くの保育園や専門学校も多く、挨拶回りから始め、グループホームにいつでも遊びに来て頂ける様、交流していく。ボランティアなどの活用を多く取り入れていく。	1年間
2	4	運営推進会議を開催できていない。	今年度は2ヵ月に1回の運営推進会議を開催する。	初回開催を5月に行える様、計画を立て、民生委員さん、地域包括支援センター職員さんへ呼びかけを行い、御家族様の参加率が多くなるよう努力します。	半年間
3	35	事業所内での避難訓練は行っているが、地域の方の参加はできていない。	地域の方々の協力を得て避難訓練を行う。	近隣のコンビニや居酒屋、スタンドへ挨拶回りを行い、緊急連絡網に加わって頂き、災害時には地域の方の協力が得られる様にしていきます。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。